

「新年おめでとう」

2020年01月01日

新年おめでとうございます。

「言は肉となって、私たちの間に宿られた。私たちはその栄光を見た。」(ヨハネによる福音書1章14節)

私たちの間に宿られたキリストによって、この世は神の栄光に輝いています。この栄光を喜び、証しして生きたいと思います。

この年の、あなたの歩みの上に主イエスの恵みと祝福をお祈りいたします。今年もよろしく願いいたします。

隆雄は5月、悪性リンパ腫が治癒したと言われました。後遺症がなくなるまで、後一歩です。60年来の友人と会い、楽しい二日間を過ごし、大きな喜びでした。

悦子は6月、末の妹静子を天に送り、悲しみました。しかし、妹は信仰に生きることの豊かさや平安を残して逝き、慰めを与えられました。 2020年 元旦

私たち夫婦の年賀状である。ヨハネ福音書は、「言は肉となって、私たちの間に宿られた。私たちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理に満ちていた」と書いている。神であるキリストが人となって、この世に遣わされた。遣わされたキリストは恵みと真理に満ちた、神の独り子としての栄光に輝き、私たちは、その栄光を見た。恵みとは無償で与えられた生きることの保障である。真理とは、自分を愛せず、他人から拒否されようとも、神に愛され、是認されていることである。栄光とは神の現臨である。キリストの受肉によって生きることを保障し、是認する神の現臨が明らかに啓示された。ヨハネ福音書のクリスマスメッセージである。

2020年の新年を迎えた、この世は神の現臨を見ることができようか。多くの人が「否」と言うであろう。政治、経済、社会、文化において、この世は、神の祝福の下にあると受け止めている人は少ない。他人を自分にとって、益か損かで計り、生きた人間ではなく、物として扱っている。互いに尊重すべき人間を物化した状況が、現在の病の根源である。神の現臨の証しを、人間尊重という視点で捉えるならば、「神不在」と言わざるを得ない。ボンヘッファーは世俗化した社会を「神なし」と言った。この状況はいつの時代でも見られた現象ではないか。主イエスは、エルサレム神殿の権威ある宗教家たちに、冒涇罪で死刑判決を受け、ローマの総督ピラトの名によって十字架刑を執行された。徹底的な無神性の暗闇を露わにした。しかし聖書は、この無神性の中で打ち立てられた十字架は、人間を義とし、神との和解の出来事が貫徹されたと告げる。キリストの降誕によって、恵みと真理が啓示された神の現臨を信じ、受け止める。暗黒のように見えても、確実な光に照らされている福音の真実がある。だから、この世を否定的に捉えず、キリストによる「然り」を、神の栄光を信じ抜くのである。神に栄光、地に平和である。

私の命の恩人である友が訪ねてくれ、丸二日、語らいの時を持って、嬉しかった。彼はクリスチャンではないが、弱い人々を支えようとした仕事を全うし、ご自分でも、その仕事に満足していた。私の人生も納得してくれた。人はいずれ死んで行くが、その時、自分の人生を肯定できることほど、嬉しいことはあるまい。私は悪性リンパ腫に侵され、厳しい治療を受けたので、後遺症からなかなか抜け切れない。また、高齢になり、したいことができないジレンマがある。しかし、あるがままの自分を受け入れ、「神は生きて、働いておられる」と証しする人生を悔いのないように送りたいと願っている。